

## 令和 5 年度 (上期・下期) 助成事業報告書

団体名	天草小唄ものがたり制作実行委員会	設立年月	2023 年 1 月
		団体人数	25 人
事業名	音楽劇 「天草小唄ものがたり 幻の歌手 横田良一」		
実施日時 ・ 会場	R5年8月13日(日) 天草市民センター R5年8月27日(日) 牛深総合センター R6年1月20日(土) 市民会館シアーズホーム夢ホール 大ホール	参加人数	①480 ②600 合計 2236人 ③1156

### 活動内容・活動成果

※別紙事業報告書を添付します

# 実施報告書

〔天草小唄誕生90年・国立公園天草編入運動開始90年記念〕

## 音楽劇 天草小唄ものがたり

### 幻の歌手 横田良一



原作／平野有益  
監修／浜畑賢吉  
作曲／出田敬三  
出演／下司愉宇起、赤池優、浜畑賢吉、  
岩本貴文、出田秀尚ほか  
特別出演／横田良一 祭実行委員会(牛深ハイセ)

天草、牛深公演でチケット完売!

2024年

1月20日(土) 市民会館シアーズホーム夢ホール(熊本市市民会館)

開演 13時30分(開場 13時) 【前売】3,500円(当日4,000円) セブンコード:103-375

【主催】天草小唄ものがたり制作実行委員会 【共催】天草市、上天草市、苓北町、天草文化協会、天草市芸術文化協会、熊本日日新聞社  
【後援】熊本県文化協会、NHK熊本放送局、RKK、TKU、KKT、KAB、天草ケーブルネットワーク、FMK、FM791、熊本演劇人協議会  
【助成】公益信託 くまもと21ファンド、公益信託 熊日文化スポーツ基金、一般財団法人 熊本公徳会、熊本放送文化振興財団  
○チケットのお求めは……熊日プレイガイド(096-327-2278)、市民会館シアーズホーム夢ホール、天草市民センター、牛深総合センター、セブンチケットまで  
○お問い合わせ……熊日事業センター TEL096-361-3365 mail:jigyo-o@kumanichi-sv.co.jp

天草小唄ものがたり制作実行委員会

## 事業概要

### (1) 事業名

天草小唄誕生90年・国立公園天草編入運動開始90年記念

音楽劇 天草小唄ものがたり 幻の歌手 横田良一

### (2) 目的

令和5年は「天草小唄」発表90年と天草で国立公園運動が始まって90年である。現在の天草市二浦町出身の横田良一（本名・中道實穂）は昭和6年後半から昭和9年にかけて東京、関西で活躍したレコード歌手である。コロムビア、キング、ポリドール、テイチクなどで100曲余を吹き込み、10本の映画主題歌を唄う。そのうちの一つは古賀政男が作曲した松竹『情人』の主題歌『情人の唄』であり、熊本市の電気館でも上映された。同世代の歌手には藤山一郎、東海林太郎、淡谷のり子らがあり、横田も最大手のコロムビアで美男の新人歌手として期待された。しかし昭和9年後半に喉頭結核にかかって吹き込みどころではなくなり生活は困窮、最後は両親のいる北九州・八幡で息を引き取る。満24歳。以後、全国的には「忘れられた歌手」となった。

その横田が昭和8年、22歳の時に天草を全国に知らせたいと自ら企画し、歌ったのが「天草小唄」である。天草の新聞「みくに」の吉見教英は全面的に支援、一般公募で選ばれた作詞は平野雅曠、作曲は大村能章。天草の風物や歴史を織り込んだ歌は雲仙国立公園への編入をめざす期成会（昭和8年2月結成）の後援を受け、国立公園運動のPRソングでもあった。（天草が国立公園になるのは昭和31年）。天草各地の風情と歴史を叙情的に織り込んだ「天草小唄」は90年経った今も歌い継がれている。

「天草小唄」発表90年に当たり、「天草はきっと国立公園になる」と言い残して死んだ横田良一の、はかなくもドラマチックな生涯を音楽劇として制作、天草、熊本市で公演。横田良一の顕彰はもとより、天草の自然風土、歴史や文化の魅力を県内外に発信し、さらには出身者も含め天草の人々、とくに若い世代に「歌の力」でエールを送りたいと企画した。

### (3) 公演日程・会場

天草公演

- ①2023年8月13日(日) 天草市民センター  
〒863-0033 熊本県天草市東町3 開演14:00 開場13:15
- ②2023年8月27日(日) 牛深総合センター  
〒863-1901 熊本県天草市牛深町160 開演14:00 開場13:15

熊本公演

- ③2024年1月20日(土) 市民会館シアーズホーム夢ホール 大ホール  
〒860-0805 熊本市中央区桜町1番3号 開演13:30 開場13:00

#### (4) 入場料

天草公演 前売券3,000円 当日券3,500円

熊本公演 前売券3,500円(セブンチケット セブンコード103-375) 当日券4,000円

#### (5) 主催

天草小唄ものがたり制作実行委員会

#### (6) 共催

天草市、上天草市、苓北町、天草文化協会、天草市芸術文化協会、熊本日日新聞社

#### (7) 後援

熊本県文化協会、NHK熊本放送局、RKK、TKU、KKT、KAB、  
天草ケーブルネットワーク、FMK、FM791、熊本演劇人協議会

#### (8) 来場者数

①天草市民センター 480名

②牛深総合センター 600名

③市民会館シアーズホーム夢ホール 1,156名                      トータル 2,236名

#### (9) 事業の実施内容

音楽劇 『天草小唄』ものがたり 幻の歌手 横田良一 120分

原作:平野有益著『流行歌手横田良一と天草小唄』

監修:浜畑賢吉

あらすじー

老人ホームに身を寄せる老婦人が車いすを押しもらい、海の見える場所を眺めていると、『天草小唄』のメロディーが聞こえてくる。この曲を唄った横田良一に少女の頃に出会い、歌をほめられたと彼女は若い職員に遠い記憶を話して聞かせる。

昭和35年、本渡港に横田の音楽碑が建立される。ロータリークラブの講演を頼まれた藤山一郎が天草を訪ねて来て、音楽碑に花束を捧げる。今では忘れられた横田良一という流行歌手とは一。

天草灘が山の頂から望める山里に生まれた彼(本名・中道実穂)は祖父母や両親、弟や妹たちに囲まれ、歌の得意な子であった。両親は子どもたちの将来を思い、北九州の八幡に新天地を求める。天草に一人残った彼は祖父母に慈しまれるが、高等小学校を出ると両親のもとに引き取られ、旧制中学を卒業、東京の音楽学校に学ぶ。

帰郷した横田は天草の村々で巡回音楽会を催し、海辺の小学校で先生に紹介された女の子が童謡を唄い、横田にほめられる。その少女が老人ホームの老婦人だった。

横田は熊本市の鎮西中学の音楽教師になるが、歌手への夢を捨てきれず、昭和6年7月上京。藤山一郎・古賀政男コンビによる『酒は涙か溜息か』がヒットし、巷に流れていた。音楽学校に学ぶものは歌謡曲を唄うことは許されず、変名でレコードに吹き込む時代。後に名声を博す作詞家も作曲家も歌手もまだ貧乏だった。横田は、そんな貧乏詩人で熊本出身の島田磬也と意気投合する。昭和7年、上海事変が勃発。横田に声を掛けてきたのは関西のレコード会社、ニッソーやタイヘイ、初期のテイチクであった。阪急電鉄宝塚線の花屋敷駅近くにスタジオがあり、そこで服部良一作曲の『馬賊討伐の歌』や田村しげる作曲『愛する君が為めならで』などを次々と吹き込む。スタジオに島田が訪ねて来て横田と会う。そこへ服部も。ボロボロの着流しで余りに素寒貧な島田に同情した服部は三つ揃いの服を脱ぎ、プレゼントする。物語は、こうした無名時代の作曲家や歌手たちを登場させ、歌と笑いを絡ませながら進む。

横田にとって忘れられないのは天草であった。ご当地ソング天草の歌を唄い、故郷に恩返しできないかと思う。そこへ天草の新聞社「みくに」の吉見教英が協力を申し出て実現させる。公募作品から選ばれたのは熊本市役所の若い職員、平野雅曠の詞だった。『天草小唄』は天草の国立公園運動のPRソングともなった。横田は同年の平野を誘い、天草へ旅する。『牛深小唄』を作るためだった。牛深では三味線芸者やハイヤ節の歓待を受けるが、東京に戻った後、音沙汰が無くなる。

東京で横田は青森県出身の登美子と知り合い、結婚し、本郷のアパートで暮らし始める。登美子は医者父が亡くなり、叔父に養育され、妹と東京に勉学に来ていた。幸せな新婚生活で二人は映画主題歌も唄い合うが、幸せな日々は長く続かなかった。喉頭結核で吹き込みどころではなくなり、生活は貧窮して祖父の住む鹿児島県出水へ身を寄せる。

「俺はもう助からない。お前の青春まで葬った。許してくれ」と言って国鉄出水駅で涙の別れをし、登美子を東京に返す。そして八幡の両親のもとで死ぬ。24年の生涯だった。亡くなる前、写真や音楽資料など一切を燃やした。横田の死後、貧乏時代を共に過ごした作詞家、作曲家、歌手たちは華々しくヒットを続け、横田は忘れ去られる。

横田の死から17年後、郷土史家の濱名志松は『横田良一伝』を書くため、二浦の墓を訪ねる。雑草が生い茂り、山石を積んだだけの墓であった。一時は「中道の財産をつぶした道楽息子」と噂された横田が、「俺は何も悪いことはしていない」と言って死んだと母から聞かされる。濱名は野の花を手向けた。

どこからか『天草小唄』の歌声が聞こえてきた。

## ① 収入

項目	金額	説明	
■チケット販売収入			
入場料収入 天草市会場	1,773,400	649枚(2700×612枚、3000×17枚、3500×20枚)	
牛深市会場	1,709,600	630枚(2700×613枚、3000×10枚、3500×7枚)	
熊本市会場	4,286,970	1262枚	
■助成金			
21世紀ファンド助成金	1,940,000		
熊本放送文化振興財団	300,000		
熊日文化スポーツ基金	200,000		
熊本公德会	100,000		
熊本県文化協会	273,000	※新型コロナウイルス対策助成金	
■パンフレット広告	2,560,000	全52社	
合計	13,142,970		

## ② 支出

謝礼・出演料			
舞台出演者謝礼	500,000	浜畑賢吉、下司愉宇起、赤池優	No.1
旅費・交通費			
舞台出演者 交通旅費	1,057,113	浜畑賢吉、下司愉宇起	No.2
天草公演、熊本公演宿泊費	534,100	天草(出演者、スタッフ 2泊)、熊本(天草ハイヤ関係者)	No.3
使用料・賃貸料			
市民会館 ホール使用料	312,700		No.4
市民会館 付帯設備使用料	404,450		No.5
練習会場費	42,400	馬水南公民館ほか	No.6
実行委員会会場費	7,110	熊日倶楽部	No.7
委託費			
作曲謝礼	200,000	出田敬三	No.8
チューブラーベル借用料、ピアノ調律費	136,420	平成音楽大学、ピアノハーブ社ほか	No.9
音楽使用著作権料	237,791	ジャスラック 3公演分	No.10
舞台大道具関連	1,614,800	吉本美術 3公演分	No.11
照明	1,206,700	ステージラボ 3公演分	No.12
音響	823,250	ステージラボ、サウンド九州 各3公演分ほか	No.13
衣装・カツラ・小道具・メイク・着付	511,824		No.14
記録写真、動画作成&司会料	409,440		No.15
チラシ・ポスター、パンフ原稿作成	352,000	データ作成、広告集稿・作成含む	No.16
会場立て看板等	117,000	縦看板、ほか @58500×2(天草市、熊本市)	No.17
事務経費	1,290,941		No.18
制作協力費	1,754,000	劇団石	No.19

印刷費			
天草市 チラシ、ポスター、チケット	161,700	A4 7,000枚、B2 650枚、チケット 900枚×2種	No.20
天草市 パンフレット	217,800	2,000部	No.21
熊本市 チラシ、ポスター、チケット	132,985	A4 16,000枚、B2 50枚、チケット 2,000枚	No.22
熊本市 パンフレット	209,000	1,600部	No.23
シナリオ	8,000		No.24
制作発表資料	80,000		No.25
封筒	18,000	500枚	No.26
ご案内等印刷	5,520	送付状8円×270枚、ハガキ印刷12円×280枚	No.27
通信運搬費			
ご案内送付ハガキ	1,890	63円×30通	No.28
チケット購入案内送付 往復ハガキ	31,500	126円×250通	
資料送付、チケット送付用切手	21,682	84円×213、140円×24、100円×2、10円×2、210円×1	
収入印紙	1,600	200円×6枚、400円×1枚	
レターパックライト	12,950	370円×35通	
広告料			
新聞掲載など	440,000	半5段、半3段を熊日朝刊・夕刊に掲載	No.29
飲食費			
ケータリングほか	288,304		No.30
予備費			
合計	13,142,970		

# 天草公演

公演日 2023年8月13日 (日)

熊本日日新聞に掲載された公演の記事

掲載日 2023年8月15日(火)朝刊

(第3種郵便物認可)

熊 本 日 日

## 故郷と妻への愛 歌にのせ



音楽劇「天草小唄ものがたり」の一場面でデュエットする、横田良一役の下司愉字起さんと妻・登美子役の赤池優さん。天草市



横田良一の写真とともに「天草小唄」を歌う出演者

天草市で上演

歌手・横田良一の生涯

昭和初期に活躍した天草市出身の歌手横田良一の生涯を描いた新作音楽劇「天草小唄ものがたり」が13日、同市民センターで上演された。横田の故郷への思いと夫婦愛を昭和歌謡の数々と共につづり、訪れた約480人を楽しませた。

「天草小唄」は横田が天草を全国に売り出そうと自ら企画して歌った当地ソング。県内の文化関係者らでつくる実行委員会（委員長・河村邦比呂熊日社長）が、彼の誕生90年などを記念して企画した。原作と脚本は、作詞者の長男で県立大客員教授の平野有益さん。

横田を演じる下司愉字起さん（テノール）と妻の登美子役の赤池優さん（ソプラノ）ら熊本ゆかりの音楽家たちが、ピアノやバイオリンの生演奏に合わせ、出田敬三・平成音大音楽長作曲のテーマ曲「石神山のてっぺんで」や、「東京ラプソディー」などの歌謡曲を熱唱。藤山一郎や淡谷のり子らと同時代を生きた横田が、スターの座を前に24歳で早世する悲劇の中にも、華やかで楽しい舞台を見せた。フィナーレは全員で「天草小唄」を歌い、会場も手拍子で盛り上げた。

27日午後2時から、牛深総合センターで公演。来年1月20日に熊本でも上演する。（平井智子）

音楽劇「天草小唄ものがたり」

天草市民センター (700席)

〒863-0033 熊本県天草市東町3

○2023年8月13日 (日)

14:00~16:10

来場者数 480名



公演日

2023年8月27日（日）



牛深総合センター（700席）

〒863-1901 熊本県天草市牛深町160

○2023年8月27日（日）

14：00～16：10

来場者数 600名

# 熊本公演

公演日 2024年1月20日（土）

## 熊本日日新聞に掲載された公演の記事

掲載日 2024年1月21日（日）朝刊

### 故郷への愛 歌声に乗せて

歌手・横田良一の生涯描く  
熊本市で「天草小唄ものがたり」



音楽劇「天草小唄ものがたり」の一場面でデュエットする、横田良一役の下司愉子起さん（右）と妻・舞美子役の赤池優さん  
■20日、熊本市中央区

昭和初期に活躍した左巻市出身の歌手横田良一（1911〜36年）の生涯を描いた音楽劇「天草小唄ものがたり」が20日、熊本市中央区の市民会館シアーズホーム夢ホールで上演された。昨年8月の天草市、同市生深町に続き3度目の公演。横田の故郷への愛や、

24歳で早世した悲劇など、熊本ゆかりの音楽家らが熱を込めて表現した。

横田が天草を全面に売り出そうと自ら企画して歌った「当地ソング「天草小唄」が昨年、誕生90年を迎えたのを記念し、県内の文化関係者らでつくる実行委員会（委員長・河村邦比呂熊日社長）が企画。原作と脚本は、作詞者の長男で県立大客員教授の平野有登さんが手掛けた。

横田を演じる下司愉子起さん（テノール）と妻の舞美子役の赤池優さん（ソプラノ）らが、ピアノやアコーディオンの生演奏に合わせて歌声を披露。出田敬三・平成音大音楽長作曲のテーマ曲「石神山のつべんで」や「佐渡おけさ」などを伸びやかな歌声で歌い上げると、会場の約1300人からは度々拍手が送られていた。（緒方季咲）



市民会館シアーズホーム夢ホール  
(1591席)

〒860-0805  
熊本県熊本市中央区桜町1-3

○2024年1月20日（土）

13:30~15:40

来場者数 1156名